



Active stage at HK

～東海南中学校だより～ 令和4年3月号



全国学校体育研究最優秀学校賞受賞！



快挙です。この度、東海南中学校が令和3年度全国学校体育研究最優秀学校賞（文部科学大臣賞）を受賞しました。中学校体育科では全国で一番高い評価です。表彰式はコロナの影響を受け、オンラインで行なわれました。文科省から学校を代表して私が賞状を受け（受け取るマネですが・・・）謝辞を述べました。オンラインといえど何度もリハーサルを行ない緊張感漂う式でした。受けた賞状は日本政府の紋章である桐の紋や文科省のすかしが入ったすごく重みのある賞状です。学校での表彰式では旧体育委員長の森脇君と新体育委員長の新井君が賞状を受けました。

この賞は井邊先生の体育の授業実践研究が評価されたものです。確かに、体育の授業での皆さんの取組は素晴らしいです。運動が得意な子も苦手な子も本当に楽しそうに取り組んでいます。マット運動でも長距離走でも、自分の能力を把握し、達成目標を立て、仲間と学び合い助け合いながら課題を克服しようと努力を続けます。それぞれの能力に応じて自分の可能性に挑戦して努力を続けていることの大切さを楽しみながら学んでいるように思います。

そんな体育の授業は、井邊先生だけの頑張りでは成り立ちません。先生に指示されなくても体育委員が集合をかけ準備運動を行なっているのは当たり前。そんな体育委員のリーダーシップも大事ですし、規則を守り、ピシッとメリハリのある行動や、教え合い励まし合える集団のまとまり。そして、何よりも健康で元気でなければ体育の授業は成り立ちません。それらのことは、普段からこの東海南で学んでいることばかりです。井邊先生はよく「授業で自分は何もしていない」と言います。それは、先生がすることがないほど、皆さんが主体的に取り組んでいるということ。そんな姿勢は、体育だけでなく様々な場面で発揮されれば、もっともっと元気ある素晴らしい東海南に成長することでしょう。



コロナ禍に立ち向かう

新型コロナウイルスオミクロン株が猛威を振る中、各部の大会や行事等もすべて中止になり、本校においても教育活動に



大きな影響が及んでいます。今や、どれだけ感染予防に気をつけていても誰もが感染してしまう危険性がある状況です。特に卒業と入試を控える3年生にとっては大きな不安でしょう。そして、残り少なくなった学校生活の大切な時間を、学級閉鎖等で奪われることが何よりも懸念されます。時間の大切さは、卒業を前にした3年生が一番感じていると思います。

今、学校ができることは、まず、朝の健康観察を徹底することです。これまで健康観察カードは教室で回収し、検温を忘

れた生徒は養護の前田先生から放送で呼び出されるというのがいつもの光景でしたが、今は生徒玄関で各学年の職員がカードを受け取り（写真左上）、熱や体調の確認をして、風邪症状などがあれば教室に入れずに保健室へということを徹底しています。

学校玄関にはようやく自動検温機を設置しました（写真右）。また、引き続き、家族の皆さんが体調不良の場合も、念のためにお子様の登校を控えるようお願いします。

そして、「濃厚接触者」（マスクなしでの一定時間の会話や体の接触、現在7日間の出席停止で家族のお仕事にも影響あり）を出さないことです。給食時の黙食、間隔を徹底しての歯磨き、体育・部活もマスク絶対着用、（音楽部は1教室に2人が両端で壁に向かって吹く）など、「マスクをとった時、絶対しゃべらない」を徹底しています。このことは、**学校内だけではなく、塾や習い事などにおいても必ず徹底してください。**

こんな状況下でも、学校や地域の感染状況をふまえ、部活動や集会など、感染対策を徹底して、できる限り継続したいと考えています。ただ、状況は日々めまぐるしく変化しており、即座に対応方針を変える必要性があります。その対応が遅れたことで、保護者の皆様にご心配をおかけしたこともあるかと思えます。申し訳ありませんでした。お気づきのことがあれば遠慮なく校長（岩崎）までお知らせいただければありがたいです。よろしく願いいたします。

生徒の行動を四六時中職員が監視徹底できません。何よりも生徒自身が自覚して行動を規制できるかがすべてです。コロナ禍で過ごしたこの2年間から学ぶべき大切なことは、生徒自身が危機管理能力を身につけることができたかということ、そして、感染者への詮索や誹謗中傷などの行為を絶対にしないことなど、人の心の痛みを理解できる人権意識が育っているかということです。この二点は必ず将来に生かされることでしょう。

全世界を巻き込みこんなに長く続くパンデミックは歴史上ありません。その中で、政治はどう判断し、科学や医学はどう発展し、働き方や経済はどう変化したのか、我々は歴史の生き証人として未来のためにコロナから学ぶ必要があるのではないのでしょうか。



コロナ禍から何を学ぶか